

勢いを増す外国人消費

経済調査部 高橋 大輝

好調な外国人消費

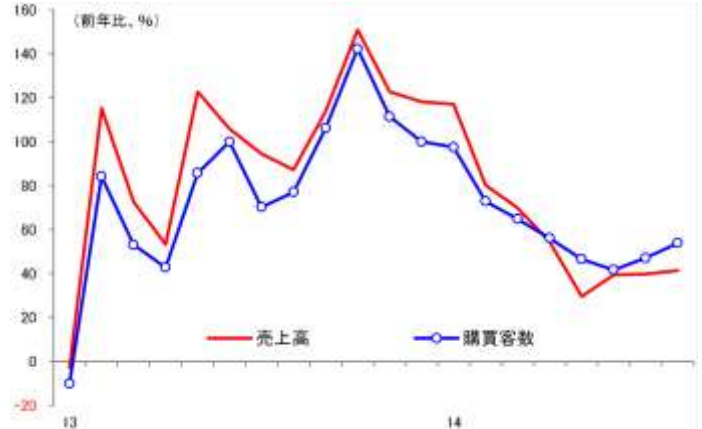
日本を訪れる外国人（訪日外国人）は2014年4月、7月と過去最高を更新するなど、最近増加傾向にあります。これに伴い、訪日外国人の消費額も増加しています。訪日外国人消費動向調査をみると、訪日外国人による旅行消費額は2014年1-3月期、4-6月期と2四半期連続で過去最高額を更新しました。4-6月期の旅行消費額は、4,874億円と前年比で30%を越える伸びとなっています。牽引役となっているのは、一人当たり消費額が20万円を超える中国人旅行者の増加であり、中国人旅行者の消費額内訳をみると、12万円が買い物代です。また、百貨店の外国人観光客売上をみても、前年比+40%程度の高い伸びが続いており、外国人消費の好調さが窺えます（資料1）。

2014年10月から免税店制度が変更

今年10月から、これまでは免税販売の対象外であった食料品や化粧品などの消耗品が免税対象となり、5,000円を超える買い物が免税販売の対象となることになりました（資料2）。食料品や化粧品は訪日外国人の購入率が高く、免税拡大は訪日外国人の消費額増加に繋がるでしょう（資料3）。加えて、地酒や菓子など地方の名産品の購入を通じて、地方経済の活性化に繋がることが期待されます。既に、企業は訪日外国人の需要を取り込もうと、外国語対応や免税店の拡充、訪日外国人向け限定商品の投入など、様々な取り組みを進めています。

人口の減少が危惧されている日本にとって、海外需要の取り込みの一つとして外国人観光客への期待が高まっています。諸外国と比較して日本の旅行収支受取額はまだまだ小さく、今後も「観光立国日本」へ向けた取り組み加速が期待されます。

資料1 外国人観光客の売上高・来店動向



(出所) 日本百貨店協会

(注) 免税手続きベース。化粧品・食品等は免税手続き対象外のため含まれていない。

資料2 免税拡大の概要

	販売金額	包装要件
一般物品 (消耗品以外)	同一の非居住者に対して、同一店舗における1日の一般物品の販売合計額が、1万円を超えるもの	-
消耗品	同一の非居住者に対して、同一店舗における1日の消耗品の販売合計額が、5千円を超え、50万円までの範囲内のもの	① 出国までに破損しない十分な強度を有すること ② 開封した場合に開封したことが分かるシールで封印すること ③ 包装の中の内容物や個数が確認できること ④ 出国まで開封しないこと等を日本語及び外国語で注意喚起する記載又は添付

(出所) 観光庁、経済産業省資料より第一生命経済研究所作成

(注) 太字は変更点

資料3. 訪日外国人の購入率

品目	購入率(%)
菓子類	62.1
その他食料品・飲料・酒・たばこ	51.6
化粧品・医薬品・トイレタリー	42.7
服(和服以外)・かばん・靴	34.7
和服(着物)・民芸品	14.3
電気製品(パソコン・音響機器など)	10.9
カメラ・ビデオカメラ・時計	9.3
マンガ・DVD・アニメ関連商品	9.1
その他買物代	18.9

(出所) 観光庁「訪日外国人消費動向調査」